

市指定文化財
無形民俗文化財

文違麦つき踊保存会

所在地：文違区
指定日：昭和54年4月1日



明治の初め頃、開墾で入植した人々の主食の麦を、一年分精白する事は大変な作業であったため、皆で唄いながら麦つきを行っていた。麦つきは夏場の暑さを避けるよう、まだ暗い早朝3時頃から始めるため、唄の回数で麦の精白の具合を見極めたという。

やがて、文違地区では麦つき踊へと昇華され、明治20年頃からは先祖の供養と人々の娯楽を兼ね、毎年の盆踊として受け継がれてきたものである。

榎戸獅子舞保存会

所在地：榎戸区
指定日：昭和54年4月1日



この獅子舞は、寛永年間（1624～1643年）、佐倉城主土井利勝が榎戸新田村を開発した頃、疫病退散と村民に娯楽を与えるために佐倉地方から導入したと伝えられる。

道中笛に合わせて、警護役を伴いながら雄(大)獅子・中獅子・雌獅子が舞う三匹獅子舞で、雄獅子の「剣の舞」や中獅子の「幣束抜き舞」等、各獅子それぞれの邪鬼払いの舞と、三匹あわせた「内(打)揃い(ぶっそろい)」等で構成される。

近年では、2年に一度10月19日の榎戸大宮神社の祭礼において、天下太平・五穀豊穡を祈願して奉納されてきたが、現在は中断しており、後継者の育成に努めている。